

営業の命綱 相談続々

持続化給付金 支給なし



生活相談窓口となるホームページを示す浦野区議と使
い込まれた相談ノート



中小企業庁の持続化給付金は、中小事業者（上限200万円）や個人事業者（上限100万円）にとって営業を続ける命綱です。申請をしたものの入金されず途方にくれた事業者が、日本共産党の笠井亮衆院議員や東京都中野区の浦野さとみ区議に相談、全国の国会議員団事務所が対応し解決に至る例が出ています。相談者は見ず知らずの相手に親身になる共産党議員の姿に感謝し、政治との距離を縮めています。（遠藤寿人）

きっかけは笠井さんツイッター

「返事がくると思っていたが」「政治や政治家をもものす」さんの投稿を積極的に引用しながら、中野区での事例などを紹介しました。

ネット上では、給付金が未入金の手続きの「ごうした書類を出せば通った」とか、「この書類じゃダメだ」などのやりとりが頻繁に行われています。そんな中で笠井さんの国会質問を取り上げたツイッターの投稿が拡散されました。浦野さんも「笠井事務所と連携してやっています」と投稿し広がりました。

今年1月半ば、投稿をみた中野区以外の人から相談が。この相談者が「（自分の）相談にのってくれる人がいる」と投稿すると拡散され、これまでにない勢いで相談が寄せられました。

浦野さんは「相談者に共通しているのは、これまで距離があった政治や政治家との距離が、ぐっと縮まったことです」といいます。「コロナ禍で在宅勤務が増え、外出制限がある中、国会中継がすぐく見られている。『自分たちが大変な時に国会は何をやっているのか』と注目されている。共産党に対する見方、見え方がすごく変化している」と力を込めます。

（15面）

「不安の中心強い」

持続化給付金相談

1面のつづき

した人が、支給されない状況が出ていました。

2カ月放置も

日本共産党の浦野さとみ中野区議は、昨年前半の相談者は自身発行の区政報告「ほっこり通信」を拠り所として地元の人々を繋ぐという地元の人々が中心だったと話します。それが秋以降大きく変わります。SNS、特にツイッターなどのネットを見た人からの相談が増えるようになりました。

特に中小企業庁の持続化給付金は、昨秋ごろから追加書類等を求める事例が相次ぎ、秋以降申請



共産党連携 全国で対応



緊急事態宣言や、開業していた「新橋西口駅」出陣中。1月、東京都中野区

日本共産党の笠井亮二つ確認し、相談者の院議員は速やかな持続化個別懇談会を中小企業庁に給付金の支給を促し、支

かけながら、提出書類の給対象を拡大するなどの相談等を丁寧に対応し院国会論議を繰り返してきていました。

追加書類8回

浦野さんによると、当初は、申請に必要な書類の不備の審査状況などを一

浦野さんによると、当初は、申請に必要な書類の不備の審査状況などを一初は、申請に必要な書類の不備の審査状況などを一

笠井事務所や浦野区議に寄せられた声を紹介し。

■埼玉県のアさん（画家）「こうして議員の方に相談させていただいたのは浦野様と笠井事務所様が初めてだったのですが、こんなに親身にこたえてくださったとは思っておらず（中略）不安の中で、とても心強かったです」

■長崎県のBさん（塗装業）「今まで政治にほぼ興味なかったのですが、このように個人に寄り添い対応してくださる政治家の方がいることを知り、とても良い機会となりました」

■東京都のCさん（建設業）「共産党ですよ。応援します。（中略）今回のことで給付金だけでなく、政治の世界にもすごく興味をもたせていただきました。微力ながら応援させていただきます」

■東京都のDさん（心理カウンセラー）「日ごろ、自分たちのつらさが、政治に反映されているとはなかなか思えず、ここまで頼らせていただき、お恥ずかしながら、お忙しい議員さんが、他の地区の一般人にこれだけ親身になってくださると思いませんでした。温かい対応と迅速なご連絡に心から感謝して今後の選挙や開議への口コミに反映したいと思います」

をそろえて提出すれば給付されてきました。しかし、昨年秋ごろから、市民税の納税証明や通帳での入出金の記録など、追加の書類が次から次へと求められています。追加書類を7、8回求められた人もいました。

寄せられた相談は多いとまで1週間に24件。ピークは2月上旬。2月4日に4件、5日に最多の9件、1日平均2、3件が3月上旬まで続きました。北海道から沖縄まで、4月5日時点で、72人が相談。笠井事務所などを通して全国の国会議員団事務所で対応しました。

浦野さんは「連絡をくださった方は本当に困り果てています。まずはその大変な状況を受け止めて、これまでも頑張られてきました。そのご苦労が伝わります」と気持ちを引き共有することを大切にしました。そして、すぐに笠井事務所へ連絡、相談をつなげました。「笠井事務所の秘書の方が、本当に迅速丁寧に対応してくださいます。相談者に寄り添った姿勢は学ぶところばかりです。国会議員団との連携なくして対応はできませんでした」と話します。